

## 《報告》まごころ勉強会

内容：自閉症とその対応について  
講師：愛知県自閉症・発達障害支援センター  
主査 森長研治さん  
日時：11月30日午後7時～9時30分

### 「普通は車椅子の人に走れとは言わないでしょう」

だったら、自閉という障害を持っている人に向かって、もっと走れと言えません。  
自分が障害を持った時に、したくないことを要求されたら苦痛でしかない。自分がされていやなことはしません。過剰な要求は、2次的障害・不利益をもたらすことになります。

障害は決してなくならないから、その障害を支援する補装具をみんなで見つけていくことが支援です。その補装具が合わなければ（対応の悪さ）2次的3次的障害を逆に起こしてしまう。力でおさえることは力がかえってくるのです。

自閉症への対応について、在宅支援と児童デイにかかわるワーカー及びスタッフの勉強会を行いました。今回の勉強会では、自閉症への理解とその対応についての具体的な学習と同時に、かかわるスタッフとしての姿勢をも教わることが出来ました。

熱意ある講義の中から、これから私達は何をわかり、何を行わなくてはならないかを少しですが感じることが出来た勉強会でした。

◇ ◇ ◇

お話しは、障害があるからというケアではなく、ふつうに人としてかかわることだと結論づけられたと思いました。

障害の特性を踏まえた生涯をとおした支援（補装具）が必要です、という言葉を受け止めました。

また、「こういう現場の方が一番大事な方です」と励ましていただいたことを嬉しく思いました。

次の日、児童デイスタッフはいつもより30分早くミーティングを行い、学んだことを実行に移すべく話し合いを行いました。

女が集いました。  
ホラガイの合図に始まるビンゴゲームの賑わい、抹茶サービス、青空でのマーじゃんに興ずる人達、みんな嬉しそうな顔・かお・顔。  
「主人が倒れてから、二人での外出はこれが初めてです。こういう機会があって嬉しい。来年も出掛けたい」とおっしゃる利用者さんご夫妻。  
「子供より私が楽しんじゃって申し訳ない」といわれる障害のお子さんをお持ちのお母さん。  
「そのための祭りでもあります



青空マーじゃん

あり、また  
キーボード  
や太鼓、手  
作り楽器な  
ど音にふれ  
る小道あり、  
秋色をバツ  
クに老若男

ほら貝に私も挑戦



このふれあい祭りを盛り上げてくださった、地域の貴船婦人の会の皆さんはじめ、遠く東京、名古屋からカリンバ指ピアノ作りの指導に来てくださった方、ご近所の皆さん、会員さんなど多くの皆さんのご協力に心から感謝申し上げます。文字通りふれあいの一日とすることが出来ました。

から」と、私達も嬉しさでいっぱいでした。  
当会の利用者さんとそのご家族、今年からは四月から始まった児童デイの児童やご家族から、普段みせられない顔やお言葉をいただきました。  
模擬店は売り切れ状態で、カレー、おでん、蒸しパン、抹茶、フランクフルト、みたらし、うさぎのパン屋さん、どれも味よし、値段よしで大好評でした。



## 大盛況でした！

### 「まごころふれあい祭り」

秋色をバックに、様々な方々が行き交う場所に



二〇〇五年の介護保険制度改正に向けて、厚生労働省ではその内容について検討しています。

その中で、要介護者のサービスプランを作るなどのケアマネージャー資格を五年毎の更新制にし、さらにケアプランの内容についてもケアマネージャーごとにチェックする方針を決め、二〇〇六年度から導入するとしています。  
(11月11日付朝日新聞朝刊掲載)

介護保険制度開始直後から、サービス提供の要であるケアマネージャーの質の均一化については課題とされており、研修など行われてはきましたが、なかなか難しいものがあつたようです。これまで、一度資格を得れば無期限にその業務が出来るという仕組みでした。これからは、資格有効期限五年とし、更新時に研修が義務づけられます。この制度導入で、利用される側にとって、より安心なサービスへとつながることになると思われれます。

サービス事業所とケアマネ事業所は別の組織が望ましい  
しかし、いくら制度改正を行っても、利用者からの苦情をきちんと受け止め質の向上につなげていく用意がなければなりません。

現在、サービス提供事業所とケアマネ事業所が同一組織のところが多く、利用者サイドからプランやヘルパーについて苦情が言いにくい場合も生じ、ときとして問題が表面化していないこともあります。  
サービス提供事業所は、ケアマネ事業を行わないという決まりが出来ることが望ましいと思われれます。

